

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. カリキュラム・ポリシーと関連してシラバスが作成されているか検証する制度を構築する。	→既存のカリキュラム研究委員会（学部）による検証および教授会に対する報告（2013年度までに）。	C
2. 上記目標を実現するために、FD活動を充実させる。	→学部独自の課題に対応するFD研修会の開催（年2回）。	B
3. 学生による授業評価をFD活動にフィードバックさせる。	→学生による授業評価のFD研修会への反映。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

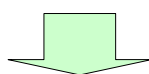
☆ 小項目6.3.1	(現状説明) おおむね問題はないものと思われるが、FD研修会（とくにシラバスの内容・項目）、カリキュラム研究委員会において懇談、検討の機会をもっている。
☆ 小項目6.3.2	(現状説明) 現行、神学部のシラバスは次の項目にしたがって作成している。「講義目的・到達目標」「各回ごとの授業内容」「授業方法」「教科書」「参考文献」「成績評価方法・基準」「学生による授業評価の方法」「準備学習等についての具体的な指示及び他の科目との関連」「キーワード」（オフィス・アワーについてはシラバスとは別様式にて公示） このうち、次の項目は必須入力となっている。「講義目的・到達目標」「各回ごとの授業内容」「成績評価方法および基準」「準備学習等についての具体的な指示及び他の科目との関連」また、すべてのシラバスはWEBで一般にも公開されている。以上、おおむね問題ないものと思われるが、とくにFD研修会（学部）においてシラバス内容の精査および書き方の研究を実施している。 なお、2008年度秋学期における全学的な授業に関する調査では「毎回の授業はおおむねシラバスにそって進行していた」という設問に対して、学部平均として4ポイントを超える結果（最高5ポイント）が出ており、個々の授業について精査は必要なものの、シラバスに基づいた授業展開についても概ね問題はないと判断している。

★ 小項目6.3.3	成績評価方法・基準については、シラバスに明記を徹底しているほか、定期試験期間前に別途、一覧の掲示も行っている。成績調査における学生からの依頼件数もほとんどない状況であり、おおむね適切に行われているものと思われる。 ■成績調査依頼件数：神学部開講科目（カッコ内は全学開講科目） 2009年度 0件（3件）／2008年度 0件（0件）／2007年度 1件（0件）
★ 小項目6.3.4	組織的研修の機会としてはFD研修会（学部）が挙げられるが、教育成果の指標およびその達成度を定期的に計る仕組みについては今後、カリキュラム研究委員会（学部）あるいは学部長室委員会での検討事項となっている。
★ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価（1）】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



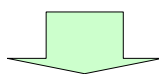
【次年度に向けた方策（1）】伸長させるための方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価（2）】改善すべき事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策（2）】改善方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

なし

【学内委員】

○小項目6.3.1の現状説明は、6.3.4での説明が適当ではないでしょうか。また、この記述だけでは現状がどうであるのかわかりません。
 ○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、2008年度の認証評価報告書を参考にされて、全小項目についてもう少し詳しく現状説明されることを希望します。
 ○2006年度の認証評価において、シラバスについて「助言」が付され「改善報告書」を本年7月に提出されました。引き続き改善が期待されます。
 ○成績評価の分布による検証は実施されているのでしょうか。
 ○かかげられた目標の実現に期待します。
 ○現状説明の、小項目6.3.3において、学生からの成績調査依頼の件数のみから評価の適切性を判断するのは不十分かつ不適切だと考えます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目6.3.1の現状説明として次の事項を付記しておく。履修単位数については、2010年度入学生からすべての学年において1学期24単位以内の上限を設けている。また、2010年度秋学期の基礎演習（1・2年次生対象）において、ラーニング・アシスタント（LA）として授業の内外で学びをサポートする上級生（主として3年次生）を採用すべく準備を始めている。

小項目6.3.2の現状説明にあるFD研修会（学部）においては、シラバスの必須要素について研修を行い、シラバスの内容充実を図っている。2006年度と2010年度のシラバスを比較すると、全体で各回の授業内容を明示しているものの総数が、35件（全シラバス中38%）から84件（全シラバス中64%）と増加している。回数毎に記載されていない科目は、学生の学習状況に歩調を合わせる科目、すなわち英語／ドイツ語などの語学科目、さらに演習科目である。

★

小項目6.3.3の現状説明として、成績評価についてはすべての授業においてその基準をシラバスへ明記している。評価方法は筆記試験、レポート試験が中心となっているが、口述試験など授業科目の特性を取り入れた工夫も行っている。レポート試験にあつては、剽窃と引用の区別などを明らかにし、論文・レポートとして正しく論述されたものしか評価しないことを徹底している。

小項目6.3.4の現状説明として、FD研修会は春学期および秋学期に計2回の実施。さらに年度開始前の3月に非常勤講師を対象とした研修会を実施しており、教員相互の情報交換あるいは授業運営における学部の現状や課題を共有する機会としている。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
